

あさおの町会・自治会 vol.31

麻生区にある125の町会・自治会をご紹介します。



虹ヶ丘3丁目団地自治会 会長 菅原 真知子

虹ヶ丘3丁目団地は、今年入居40年を迎える410世帯の分譲住宅です。当団地は、横浜市青葉区すすき野地区に隣接し、この地区とも交流を深めています。

緑豊かで静かな住宅地ですが、入居当時は午後10時半を過ぎるとバス便が無く、陸の孤島状態でした。入居と同時に結成された自治会と、近隣の自治会、各団体の方々の活動で、入居数年後からは、田園都市線あざみ野駅からのバス便は終電とつながり、遅く帰宅する人の足の確保ができております。これは団体交渉の成果だと思っております。

自治会は入居と同時に入会が義務付けられており、活動への関心、無関心の有無にかかわらず全世帯が自治会会員で自治会費も徴収されています。

自治会運動は、毎年各棟より選出された18名の役員が、会長1名、副会長2名、各専門部15名に分かれて行っていますが、大きな行事に関しては、毎年お手伝いを頂いているボランティアの方々との協力がなければ成り立たないのが現状です。

1年の主な行事は、8月の納涼会、9月の敬老会、10月の防災訓練、1月の新春餅つき大会、などですが他にも【どっこいシニア】の皆さんは、各行事のお手伝いは勿論のこと、子



納涼会の様子

ども見守り隊、など他にも幅広く活動しています。又、お花の好きな方々の【花いっぱい会】は麻生区からいただく花苗も加えて、団地内を花いっぱいにはしています。シニアに負けず【子ども会】も頑張っています。12月には子ども会中心の夜回りを行います。子どもたちが拍子木をたたき大きな声で「火の用心、マッチ1本火事の元」と団地内を回ってくれます。その声を聞くと、火の元は大丈夫かなと確認することもあります。少子化で年々子どもが少なくなっていますが心温まる活動は今後も続けて欲しいと思います。

これからの課題としては、個人情報の問題で、住民の情報を把握できないことではないかと思っております。昨年10月、高齢者の孤独死が見つかり、自治会としても大変ショックを受けてい

ます。今後の対策として住民の情報をどう把握するか、それをどう管理するか、検討に入ったところです。とても難しい問題なので行政、各自治会の皆様の取り組みなどお聞かせいただければと思います。

又、住環境の良さから大規模災害に対する、危機管理の甘さもあります。自主防災組織の運営を充実し、住民が、安心、安全に暮らせるような活動を進めていきたいと思います。



敬老会の様子

あさお区内地域紹介

王禅寺のどんど焼き

王禅寺町内会会長 岡本 義雄

王禅寺では昔は「せえのかみ」と言っていました。今はどんど焼きとして1月14日前後の主に土日に3地区で行っています。笹・竹・木の枝を藪つる等で結わき塔状の物を造り、正月飾り・お札・ダルマ等を飾りつけ、入口地区神明社では神社前のちびっこ広場で午前10時に、谷戸地区比川社では琴平神社の行事として駐車場午後3時に、日吉地区日枝神社では日吉協会・神社氏子会の行事として会員の休耕田で午後1時に火がつけられます。どんど焼きの火にあたり焼いた団子を食べると風邪をひかないと言われております。燃え盛る火が収まってから竿に刺した団子を焼き、お神酒・飲み物・お菓子・みかん等をいただきながら大人・子どもも楽しみ一年間の無病息災を願うお正月の行事となっています。



日吉地区のどんど焼き

黒川町内会のどんど焼き

黒川町内会会長 市川 幸一

黒川町内会のどんど焼き(せえのかみ)は昭和30年代頃までは、上地区、中地区、下地区の三ヶ所で中学2年生が大将となり子どもが中心でありましたが、鶴川街道の拡張に伴い又住宅が建てられ始め、中地区は取りやめになり、中下が合同で東宮農団地のそばに移り、二ヶ所となりました。昭和50年代になると少子化の影響で従来の方法では維持できなくなりました。町内会と神社が中心となり、大人が運営することになり、子どもたちは各家庭から小遣いをいただきながら正月のお飾りを集める作業だけになりました。

どんど焼き

7日に塔を建て、14日に点火がしきたりでしたが、最近では14日に近い日曜日になりました。はるひ野の誕生と共に汁守神社の参拝者が増えて、お炊き上げにお飾りを置いていくようになり、10mを越える塔にだるまや正月飾りが賑やかに飾られる様は見事です。上地区のどんど焼きは田圃の中で行われるので、午後5時の点火と同時に火が頂上に向かって竜が天に昇ることです。黒川、はるひ野以外からも沢山の人が参加しております。



黒川町内会 上地区のどんど焼き

岡上西町会のどんど焼き

岡上西町会どんど焼き実行委員長 渡辺 義雄

どんど焼きのやぐらは、岡上町内会、岡上川井地区と和光大学のご協力で、岡上町内会の方が所有の田んぼをお借りし、岡上町内会の方が所有の竹やぶから竹を切り出して、11m～13mの高さの竹を組み合わせてやぐら本体を組み上げ、燃えやすくする為に、本体周辺に柴木や竹箆を配置します。また、その周りには町内から持ち寄った正月の飾りつけやだるま等を綺麗に飾り付けます。やぐら作りは、竹の切り出しや、やぐらの組み上げなど重労働のため、学生さんの若い力のご協力なしには出来ない作業です。

どんど焼き当日は、早朝から、もち米を蒸かしてお餅つき、団子づくり、トン汁等をつくり、関係者に振る舞います。団子を、3色の団子を竹の串にさして、どんど焼きの火で焼いて食べるために用意します。午後になると、和光大学の和太鼓サー

クル「竜鼓座」のご協力を得て、振れ太鼓で町内を回ります。着火は、午後3時に火おこしをして、大人が付き添い、歳男や歳女の児童がやぐらに火を付けると、あっという間に燃え上がり、火力で近づくことはできません。下火になった頃、どんど焼きの煙を浴び、3色団子を焼いて食べ、今年一年の無病息災、家内安全、五穀豊穡を祈願します。

当日は、町会関係者、和光大学関係者等、500人を超える参加者が集まり、どんど焼きの燃える迫力、焼いた団子を堪能します。

やぐらの組み立てから、開催当日まで、和光大学芸術学部のご協力で、やぐらを夜間にライトアップ(ライトアート)し、幻想的な雰囲気を出します。

今年は、1月6日(土)にやぐら組立、準備を行い、どんど焼きは、1月20日(土)に行いました。



岡上西町会のどんど焼き

上麻生東町内会のどんど焼き

上麻生東町内会会長 小清水 孝明

町内会のどんど焼きは、歴史が古く、昭和初年に下麻生との境に接する、今の恩廻公園近くの三叉路でどんど焼きが行われていたそうです。

この事を「セイノカミ」とか「どんど焼き」と言い、毎年1月14日に無病息災を感謝祈念して行われるのが慣例で、今でも原則として、14日に行われます。上麻生東町内会では、麻生水処理センター隣のみどりの広場で実施されます。前日に竹を切り出し、当日午前「斎の塔」を組み上げて、正月飾りだるま等で飾りつけ、午後2時に無病息災を祈り、火入れを行

います。

どんど焼きで一番心配されるのが、燃え上がる炎と飛び散る灰です。消防団の協力のもと、近隣住民の理解を得て、行われます。今年は、天候にも恵まれ風も穏やかな青空の下で、多くの住民が参加され、最後に風邪を引かないように、残り火で焼いた団子を食べて、無事終わりました。



上麻生東町内会のどんど焼き

真福寺町内会のどんど焼き

真福寺町内会 井上 俊夫

町内会のどんど焼き(寒の神・せいのかみ)は、旧来から正月飾り、破魔矢、連磨などを持ち寄り積み上げて燃やし、煙の小枝にさした団子を焼いて食すことにより、これまでの1年間が無事に済んだ事への感謝と、これからの1年が無病息災であるよう祈願する年中行事として1月14日に行われてきました。近年は、白山神社前の田んぼで実施していましたが、道路の開通や宅地化により、今年は13日(土)に真福寺小学校の校庭を借りて実施しました。校庭に大小二つ作り、大きい方は従来通りで、小さい方は寺子屋の体験活動として50名余りの児童が手伝い組立てました。午後1時に点火、その後約500人が団子を焼き、無病息災を願って食していました。



真福寺町内会のどんど焼き